

喜多方市議会決算特別委員会会議録

令和4年10月17日（月曜日）

【産業建設常任委員会所管分】

○佐原正秀委員長 次に、産業建設常任委員会所管事項について行います。

ご質疑ございませんか。

小澤 誠委員。

○小澤 誠委員 私は、労働行政の抜本的強化についてということで質疑いたします。

これは、実は地域の労働者の賃金をもっと上げる必要がある。それは、地域の経済循環をつくっていくためにも、商店街や何かの売上げ、消費購買力を高めていくためにも、今、絶対必要だと。賃上げというのは、今の内閣の最大の課題だと、国でもこう言い始めましたので、どうしようかということで、実は喜多方市の労働者の賃金実態を調べようと思ひまして資料請求しましたが、出ませんでした。そういう調査はやっていませんと。

そこで、労働行政そのものをもっと強めていく、そういうことが必要なのではないかと思ひました。ただ、労働行政に関わる予算というのは、ここ数十年2,000万円ちょっとぐらいでずっと推移しているのです。合併前のほうが多いぐらいの状態になっていますので、これを何とかしたいと思ひているのですが、市長はどんなふうにお考えかお聞きしたいと思ひたのです。

○佐原正秀委員長 答弁を求めます。

遠藤市長。

○市長（遠藤忠一君） 委員ご指摘のとおり、労働行政は大変大事だし、地域の活力を生むという意味での循環、経済の循環というようなお話ありましたけれども、私としても大変大事な問題だと思ひっております。

そんな中で、消費購買力を高めるということも必要である。そのためには、労働者の賃金や所得が向上することが重要だと認識しておりまして、これまでも産業の振興に取り組んできたところでございます。賃金の向上につきましては、まずは、それぞれの企業に力をつけていただくための企業の生産性の向上や経営基盤の強化のための支援を、財政支援も含めて行ってきたところであります。今後も引き続き、これらの支援を効果的に行うとともに、企業誘致にも取り組んでいくことが重要だと思ひておりまして、様々な企業誘致、経済活動をよりスムーズに行って、働く方々の賃金が上昇し、それによって消費が伸び、そして商店街が活力ある、まさに循環型の社会ができるのではないかと思ひておりまして、国全体の組織は別としても、喜多方市でも大変厳しい、コロナ禍の中で大変な状況も想定しているわけでありまして。

また、今日まで、令和3年度に限らず、今年度についてもコロナ対策ということで様々な手を打

ってまいりました。これからもそういった形でしっかりと対応してまいりたいと思います。

○佐原正秀委員長 小澤 誠委員。

○小澤 誠委員 具体的に、少なくとも市内の労働者の実態が分かるような役所の部署、そして最低賃金だとか、あるいはケア労働者の賃金を上げるとか、あるいは臨時職員の賃金を上げるとか、そういう法的対応でもって改善ができる、そういうようなものについては、具体的に団体交渉をするわけにはいかないから、政府に対する働きかけだとか、そういうことなのですが、そういうようなこともこの部署、今は商工課というのかな、その中で労働者の部分、これは職業紹介と勤労者福祉というか、そういう部分しか仕事がないのですよね。しかも、これは人件費1人取っているから、実際に事業に使う金というのは1,000万円ちょっとぐらいなのです。そういうことからいったら、そういう仕事ができる部署としてもっと予算をつけるべきだと思うのですが、そういう考えはあるでしょうか。

○佐原正秀委員長 答弁を求めます。

遠藤市長。

○市長（遠藤忠一君） 委員ご承知のとおり、部署が商工課という形で限られているのではないかと
いうお話もございました。

確かに労働行政で担当する福利厚生や賃金に関しては、企業と、それから先ほど申し上げましたように、労働者が密接にも関係しているわけであります。そういう意味では、労働行政と商工振興を一緒にすることによって、また離すことによって連携がうまくいかなくなるという部分もありますし、あとは国のハローワーク等々でそれぞれ精緻な有効求人倍率とか出ているわけですが、現実的にはこの小エリア、例えば喜多方市内のエリアについては、耶麻郡関係とか、そういった形で一体的になっていないということも含めて、実態を把握するということが私は大切ではないかなと。その実態を把握した中で適切な政策を打っていくということも必要だと思いますので、今ご指摘のありましたようなことも含めて、この政策の中で検討してまいりたいと思います。

○佐原正秀委員長 小澤 誠委員。

○小澤 誠委員 最後にします。

私が考えるのは、商工課の中に係を置く、そういうことよりも、労働者の最低賃金を上げるとか、あるいはケア労働者の賃金を上げるだとか、そういうような問題や労働条件に関わるような仕事、あるいは会社が倒産したときに労働者をどういうふうにして救済するのとか、そういうようなことを考える部署は商工課の中にあるのではなくて、どちらかといったら福祉とか、社会保障とか、そういうものと隣接するような仕事ではないのかと思って、県は確かに商工労働部というのがありまして一緒にやっています。国は厚生労働省とあって、福祉、社会保障を扱う部分と労働行政を行う部分が一緒になっているのです。国の場合に、例えば経済産業省と厚生労働省の部分を一緒にするなんていうことは、これはほとんど不可能だと思います。そういう点では、県ではこうやっている

のだけれども、喜多方市では労働行政を本当に抜本的に強化するという事を考えながら、その部局の再編成といいますか、そういうようなことも視野に入れながら検討はできないでしょうか。

○佐原正秀委員長 答弁を求めます。

遠藤市長。

○市長（遠藤忠一君） お話のとおり、国においては厚生労働省、さらには経済産業省といった形、あるいは、また県の中では商工労働部というような形であります。

私ども小さい基礎自治体でありますので、当然、福祉部門も含めて、様々な形で連携を取って今日までやってきたわけですが、ただ、やはり状況が、ケアの必要な方とか、労働者とか、最低賃金の検討とか、コロナ禍の中で時代が大きく変化する、経済状況が大きく変化する中で、当然必要な部分があれば、やはり適時適切に検討しなければならないのではないかなと思います。

特に組織の再編については、私どもも新型コロナウイルス感染症対策課をつくったり、適時適切に様々な課の新設をしながら、市民の様々な行政ニーズに的確に応える。当然、庁内で連携を取りながらですが、その部署を設けることによって、県・国あたりとの連携がより密になるというシステムができれば、よりよいかなということも考えられますので、今後それらも含めて検討させていただきたいと思います。

[小澤 誠委員、自席より、「終わります」]

○佐原正秀委員長 他にご質疑ございませんか。

山口文章委員。

○山口文章委員 私のほうから空き家対策についてということで、空き家バンクの掲載についてということの総括質疑に入ります。

まず、市長に伺いたいのですが、空き家対策で市のホームページに掲載されている空き家バンクのところの実際の空き家とか、貸付物件、そういったところの写真は見たことありますか、伺います。

○佐原正秀委員長 答弁を求めます。

遠藤市長。

○市長（遠藤忠一君） 決算委員会の中で質疑があったというようなことで、つぶさに見させていただきました。

○佐原正秀委員長 山口文章委員。

○山口文章委員 分かりました。見てもらえたらよかったですけれども、私も空き家対策については、各自治体いろいろなところでも問題になっていると思います。喜多方市でも空き家対策として補助金とか、いろいろ出していますけれども、市のホームページのところの空き家バンクのサイトのところを見ていると、12日の質疑でも話しましたが、既に売却したところが残っていますし、あと私が一番思ったのは、その物件について魅力ある写真ではないのです。この写真、風景は、

本当にこれは人がいなくなった生活感を撮っている写真にしか見えなくて、これを見た人は、何だと。よい物件とか、その物件を見に行こうとまでは動かないと思うのです。

なので、空き家バンク、せっかくホームページに載せて空き家対策に取り組んでいるという意味合いもありますので、掲載の方法、写真もやはりもうちょっと撮り方を工夫すれば、見る方も好印象になりますし、喜多方に移住・定住でもそうですけれども、お試しでもそうです。そういったところに行こうかなという考えを持つと思うのです。なので、やはりこういったところも一つ一つ改善してほしいとは思うのですが、その辺について市長の考えを伺います。

○佐原正秀委員長 答弁を求めます。

遠藤市長。

○市長（遠藤忠一君） 委員ご指摘のとおり、空き家バンクの制度については、平成30年から運用を開始し、ホームページを作成し、空き家物件等の情報を掲載し、空き家を求める方に物件の紹介をしているわけであります。しかしながら、今お話ありましたように、かえってマイナスになっているのではないかというようなご指摘も今、委員のほうからありました。

空き家バンク制度開始後、令和3年度までの実績、成約件数は12件となっておりますけれども、さらに空き家の利活用が促進されるよう、空き家を求める方が見やすく、魅力ある空き家バンクの物件を紹介するホームページにアップするというのも大変必要だと思いますし、同時に、こんなに自然がいっぱいで、様々な宝物がいっぱいある。そして、全国にはせたる喜多方市という名前も売れているという状況でありますので、他の基礎自治体に負けないようなホームページの作成を検討しながら、他の自治体のサイトも参考にしながら見直しをし、空き家を求めるなら、まずホームページを見るならば、喜多方市のホームページを見ると。そこから入って行って成約するという形になればよいなと思っておりますし、どんどん少子高齢化が進んで、空き家が非常に年々増えている状況になっておりますので、思い切ってそういった意味で、まさにその空き家に入りたい、喜多方に移り住んでみたいと思えるようなホームページのアップについても検討させていただきたいと思っております。

○佐原正秀委員長 山口文章委員。

○山口文章委員 市長のほうから前向きに検討するという事だったのですけれども、それは本当にやってください。

あと、ちょっとかけ離れてしまうかもしれないのですけれども、そのときはちょっとすみませんけれども、このホームページも市の看板になるものなので、市長も先ほどホームページを確認したと言ったのですけれども、やはりちょこちょこホームページを確認してもらって、ちょっとこの写真はいかかなものかとか、市長のほうからもどんだん意見を出していただきたいと思っております。

あと、その対策のほうを、空き家に関しては今回言いましたけれども、そのほかにもそういった形

で十分注意しながら、こういったホームページの活用の方法をよろしくお願いいたします。答弁は結構です。

○佐原正秀委員長 他にご質疑ございませんか。

菊地とも子委員。

○菊地とも子委員 それでは、画像投稿システムについて総括質疑いたします。

実績件数がやはり年々増加していることは、この事業の効果、これは確実に見られると評価しております。専決処分でも、穴ぼこによる損害賠償というのも最近は見受けられませんので、この効果かなと思っております。

しかし、その一方で、投稿件数が増えることで人手不足になっているのが現状でございますので、もうこれは件数が増えるのはよいですけども、人手不足によって市民の投稿にも迅速に今後対応することができなくなったのではいけないと思いますので、画像投稿システム事業に関する人員を増やすとか、窓口を別に設けるとか、そういうような対策が今後必要ではないのかと思うのですが、市長の考えを伺います。

○佐原正秀委員長 答弁を求めます。

遠藤市長。

○市長（遠藤忠一君） 画像投稿システムにつきましては、令和2年10月1日から運用を開始しております。24時間いつでも誰でも誰にでも位置情報つきで道路や街路灯などの不具合についての投稿ができるため、迅速な修繕対応が図られており、委員ご指摘のとおり、年々その投稿が多くなってきている。一方では、そういった問題がすぐに解決できるというような体制も反面取らなければならないと思っている次第であります。

数字で申し上げますと、令和2年度は運用開始から半年で19件、さらには、令和3年度は年間67件となっております。令和4年度と申しますか、今年の9月末までの半年間で537件と大変増加している傾向にあります。それだけ市民の皆さんが安全・安心な地域づくり、様々な危険度を市に連絡していただく、大変ありがたいことだと思っている次第であります。

一方で、増加する投稿については、現地確認や投稿への返信、さらには修繕の発注など、分担作業でできる限り迅速に対応しているところでありますけれども、組織体制の在り方については、実態を踏まえながら、負担軽減と効果的な対応が図られるよう今後検討してまいりたいと思います。

特に街路灯については、なかなかパトロールを夜やるというのも大変ですし、常に、今までもそうですけれども、担当が道路パトロールしながら対応してきたわけですが、街路灯の投稿がこの五百何件の中で相当なウエートを占めているということで、先ほどありましたように、安全・安心な地域づくりの核となるものでありますので、しっかりと対応できるように組織体制も含めて検討してまいりたいと思います。

○佐原正秀委員長 菊地とも子委員。

○菊地とも子委員 本年度、令和4年度の9月30日現在で537件の投稿があったということで、その対応に追われて自分たちの仕事もう残業になってしまうと、そのくらい大変だということですので、そこはしっかりと踏まえて、ぜひこれは早急に対応していくべき事業だと思いますので、再度、申し訳ないですが、再度その辺の覚悟ですね、お願いいたします。

○佐原正秀委員長 答弁を求めます。

遠藤市長。

○市長（遠藤忠一君） 申しあげましたように、実態を踏まえ、職員の負担軽減を図る、そして効果的な対応が図れるよう、今後しっかりと検討してまいりたいと思います。

〔菊地とも子委員、自席より、「はい。以上です」〕

○佐原正秀委員長 他にご質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

○佐原正秀委員長 ご質疑なしと認めます。

以上で総括質疑を終了いたします。